

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	学校名	岐阜県立吉城高等学校			
校長名	鈴木 健	対象学年	全校	人数	363	人
活動名	YCK (吉高地域キラメキ) プロジェクト	時間数 (最大)	1年生 63 時間 2年生 134 時間 3年生 113 時間	継続年数	3	年
題材	①自然環境 (山野・河川・動物・植物・その他) [外来植物防除作業] ②歴史 (出来事・史跡・先人・その他) [古川祭, 台湾研修] ③文化 (芸能・芸術・民話・風習・その他) [きつね火まつり, 三寺参り] ④地場産業 (農業・水産業・伝統工芸・その他) [山中和紙, 和ろうそく] ⑤地域との積極的な関わりをつくる活動等 [ひまわりプロジェクト] ⑥その他 (福祉ボランティア, 防災教育) [和光園訪問, 災害図上訓練]					
複数年継続するための工夫改善	昨年度, ESD (持続的な開発のための教育) を進める「ユネスコスクール」への加盟を目指し, ACCU (公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター) に書類申請した。今年度は, 生徒がより主体的に地域と関わり, 様々な体験をしたことを進路実現につなげられるように, YCKプロジェクトリーダーを結成し, 地域の人材からコーチングを受けている。さらに, 中長期的な将来を見据えた改革を進め, 地域の子どもの数が減少する中で, 質の高い教育を保証し, 生徒一人一人の進路希望を実現する高校として, YCK (吉高地域キラメキ) プロジェクトを取り入れた多様なコースや科目設定が可能な教育課程を編成し, 課題解決能力が求められる新しい大学入試制度に対応する。					

1 ねらい

「地域に根付いた, 地域に愛される, 地域に貢献できる」学校として, YCK (吉高地域キラメキ) プロジェクトを推進する。地域と連携した【観光】【教育】【福祉】【防災】の4分野の活動を通して, 生徒を課題解決能力身に付けた, 地域の未来を担う志を持った逞しい人材に育てる。

2 活動の概要

(1) イメージ



(2) 本プロジェクト4分野の活動と総合的な学習の時間に行った取組の概要

実施日	活動名 (時間)	参加人数	分野
		学年別内訳 1年/2年/3年	
通年	プロジェクトリーダー (20)	0 / 8 / 7	総合
4/17	古川祭英語観光案内研修 (古川中) (1)	0 / 0 / 7	観光
4/19	古川祭英語観光案内 (3)	7 / 17 / 56	観光
5/20	里山サイクリング (4)	0 / 2 / 0	観光
5/24	大垣ユネスコ講演会 (1)	0 / 3 / 0	総合
6/6	スマイル広場 (2)	0 / 2 / 10	福祉
6/15	外来植物防除 (1)	0 / 61 / 0	防災
6/24	フレンドリースクール (2)	0 / 2 / 6	福祉
6/26	ひまわりプロジェクト 学校種まき(2)	12 / 2 / 10	防災
6/28	美ら地球講演会 (1)	0 / 3 / 0	総合
7/8	ひまわりプロジェクト 地域種まき(4)	11 / 2 / 6	防災
7/13	増島保育園交流 (1)	0 / 0 / 35	教育
07/19	和光園交流会 (2)	28 / 36 / 44	福祉
7/22	絵本読み聞かせ (4)	1 / 0 / 3	教育
8/1	サイエンス教室 (4)	0 / 18 / 0	教育
8/3, 4 21	学習サポーター (古川中) (4)	2 / 11 / 10	教育
8/4~10	台湾交流海外派遣 (40)	0 / 7 / 6	観光
8/7	学習サポーター (国府中) (4)	3 / 1 / 3	教育
8/16	大正大学地域調査 (6)	0 / 0 / 3	教育
8/21	学習サポーター (古川西小) (4)	2 / 4 / 5	教育
8/26	文化村サマーフェス (8)	2 / 7 / 8	観光
8/	国府児童館 (4)	3 / 4 / 8	教育
8/	アルカディア (4)	3 / 2 / 0	福祉
9/23	きつね火まつり (8)	4 / 0 / 0	観光
10/1	ぼくらのはたらくくるま (8)	0 / 3 / 0	教育
10/2	和光園清掃活動 (2)	24 / 35 / 23	福祉
11/2	図上災害訓練 (1)	0 / 133 / 0	防災
11/2	ひまわりプロジェクト 種選別 (1)	113 / 0 / 0	防災
11/5	のくとまりマーケット (8)	7 / 2 / 0	観光
11/9	ひまわりプロジェクト 種選別 (1)	0 / 133 / 0	防災
11/20	将来を支える福祉人材育成 (1)	113 / 0 / 0	福祉

上記の31活動にのべ1,083名が参加した。(12月15日現在)

(3) 全校の活動状況 (分野ごとの活動数と参加人数)

【地域観光】7(132), 【地域福祉】6(328), 【地域教育】9(119), 【地域防災】6(483)

【プロジェクトリーダー研修】10(15), 【地域を知る講座の準備など】2(6)

(4) 学年別の活動状況 (活動数と参加人数)

【1年生】16(335), 【2年生】24(498), 【3年生】18(250)

(5) 本プロジェクト4分野の活動と総合的な学習の時間に行った取組の概要

①【地域観光】

外国人観光客の増加に対応し、英語の授業の一環として、外国人観光客に観光案内を行う「古川祭英語観光案内ボランティア」を4年前から飛騨市と連携して行っている。観光協会から講師を招き事前学習を行い、そこで学んだことを古川中学校の生徒に対して還元する機会を設けた。また、今年度は、飛騨市観光協会と長年交流を深めている台湾新港文教基金会の支援を受け、夏期休業中に台湾新港郷へ1週間のホームステイを軸とした「台湾高校生海外派遣事業（台湾研修）」を実施した。

②【地域福祉】

近隣の高齢者福祉施設「和光園」を定期的に訪問し、生徒が企画したゲームで楽しんだり、茶道部が呈茶したり、清掃活動等の交流を図ったりしている。また、飛騨吉城特別支援学校の「スマイル広場」では小学部の生徒と交流している。今年度も、同特別支援学校高等部の生徒が生産活動で作った作品を本校の文化祭で販売する交流をした。今年度は、飛騨市が地域若手介護人材育成に係る連携協定を締結した社会福祉法人を講師に招いて「福祉や介護に関する授業」を実施した。

③【地域教育】

長期休業中に、地元の小中学生への「学習サポーター」、地域の小学生を対象に実験などを通して科学の面白さを伝える「小学生サイエンス教室」、英語会話選択者が市内の保育園児を対象に遊びを通して英語の面白さを伝える「英語で遊ぼうin YOSHIKI !」を実施した。理数科生徒による「課題研究発表会」は、地域の公民館で中学生や市民を対象に公開している。同じく理数科では、飛騨市神岡町にあるスーパーカミオカンデを見学し、最先端科学に触れる機会を設けている。今年度はその研究者や大学院生を招いて、高校生が学習支援を受けた。

④【地域防災】

地学部は「古川国府盆地の地下に伏在活断層」の仮説を立て、地形発達史の関係から盆地の地形の説明を試みており、地域の防災意識を高めることに貢献するとともに、学術的にも評価されている。今年度も、生徒防災リーダー3名が3か月間にわたり、過去の災害状況調査、地区の危険個所の確認等を行った。それを基に、2学年を対象に「災害図上訓練」を行った。また、写真部が中心となり、「被災地の痛みを忘れない！」を合言葉に、東日本大震災の被災地から送られたひまわりの種を学校や市民農園で育てる「ひまわりプロジェクト」に取り組んでいる。

⑤【総合的な学習の時間に行った取組】

ア 生徒が地域課題への関心を高め、理解を深める機会として、「地域を知る講座」を2回実施した。1回目は、大垣ユネスコ協会の今みどり氏を講師にお招きし、「ユネスコ活動とESDパスポート」と題して実施した。2回目の講座は、山田拓氏（株式会社美ら地球代表）を講師にお招きし、「里山サイクリング」に同行したプロジェクトリーダー2名との対話形式で、『日本の「里山」から世界の“SATOYAMA”へ』と題して実施した。

イ 本プロジェクトに参加する生徒が、地域社会と課題を共有して、より主体的に関われるよう、プロジェクト推進の中心的な役割を担う「YCKプロジェクトリーダー」を結成した。様々な体験がより将来につながるものになるよう、㈱チームフロー公認メンタルコーチの関口祐太氏からサポートを受け、事前事後の丁寧な指導ができるようになった。2月7日には、「YCKプロジェクト報告会」を地域の方に来ていただける形で実施し、1年間の取組を発表する。

3 地域住民との関わり，地域社会への貢献の様子

各分野で地域の資源や人材を有効活用し，教育目標実現のために適切な教材を利用する。

(1) 【地域観光】

飛騨市観光協会，観光に関わる地域の方々との交流

- ①「観光パンフレット」：飛騨市市観光課，観光協会から提供
- ②「英語ガイドブック」：英語の授業で作成
- ③「里山サイクリング」：外国人観光客向けのツアーに同行
- ④「ぼんぼり夢街道」：地域活性化のイベントに参加
- ⑤「台湾交流」：台湾新港文教基金会と飛騨市観光協会から支援

(2) 【地域福祉】

地域の福祉施設を訪問し，職員の方々や入所者の方々との交流

- ①「和光園」：学校近くにある高齢者福祉施設で実施
- ②「スマイル広場」：飛騨吉城特別支援学校で実施

(3) 【地域教育】

近隣小中学校及び飛騨市神岡町にある国の研究施設及び児童生徒職員との交流

- ①「学習支援」：古川中学校，古川小学校，古川西小学校，増島保育園で実施
- ②「理数教育」：東大宇宙線研究所を見学，院生と交流

(4) 【地域防災】

地域の防災意識を高めることに貢献するもの

- ①「微地形図」：古川盆地の地形図や野外観察や測量機器等で測定
- ②「震災の教訓」：東日本大震災の被災地で生き残ったひまわりを育成
- ③「防災ハザードマップ」：地域行政と作成
- ④「特定外来生物」：飛騨市環境課からの講義，防御作業で協働

(5) 【総合的な学習の時間など】

生徒がより主体的に地域と関わり，体験を進路実現につなげる仕組み
教育課程編成と課題解決能力が求められる新しい大学入試制度への対応

- ①「YCKプロジェクトリーダーへのコーチング」：地域人材に依頼
- ②「地域を知る講座」：地域人材から講師を依頼し実施
- ③「総合的な学習の時間」：飛騨市役所地域振興課と協働，内容を検討
- ④「高大接続」：大正大学地域創生学部と交流

4 活動を通しての児童生徒の変容（生徒の感想より抜粋） *（ ）内は進路先

- (1) 【地域観光】 飛騨市文化村サマーフェスにイベントスタッフとして参加
地域活性化のイベントを盛り上げようと取り組んでいる地域の若い世代の方から，多くのことを学ぶことができた。（飛騨市役所観光課に就職）
- (2) 【地域福祉】 特別支援学校スマイル広場に参加
企画から携わることで，人との関わりの素晴らしさやコミュニケーションの大切さを知ることができた。（山梨大学教育学部特別支援教育専攻科に進学）
- (3) 【地域教育】 小学生サイエンス教室に参加
普段の授業で学んだことを先生役になって小学生に「理科の楽しさ」を教えることにはやりがいがあった。（岐阜聖徳学園大学外国語学部外国語学科に進学）
- (4) 【地域防災】 地学部員として「古川国府盆地の地形や活断層」を調査
地学部のデータを，行政のハザードマップに反映し，災害時に求められる行動について考えることができた。（都留文科大学文学部初等教育学科に進学）
- (5) 【プロジェクトリーダー】
リーダーとしてYCKプロジェクトに関わった経験が，志望理由書や面接で役に立った。進学先で専門性を高め，地域に戻って貢献できるよう頑張りたい。
(大正大学地域創生学部合格)

